



経営(継承)のツボ

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

青春とは人生のある期間ではなく
心の持ち方をいう

四国・松山から主宰塾に通う
グループホームの管理者がいる。
昨年「介護甲子園」にエントリー
し、見事に1次予選を通過した30

人は信念と共に若く

疑惑と共に老いる

人は自信と共に若く

恐怖と共に老いる

人は希望と共に若く

失望と共に老い朽ちる

いま、頭を高く上げ希望の波をと

転期に立つ経営の視座⑤

青春(青は春の色)

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(簡井書房)、『介護人財創造塾』(簡井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

事業所の1つだ。その管理者が、フェイスブックにアップしたのが、この詩である。

「青春」

青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方をいう。

歳を重ねただけで人は老いない。理想を失った時、初めて老いる。

らえる限り、たとえ何歳であろうと君は若い。

木片に記された詩をデジカメに写し、次の文面を添えていた。

「入居者さんの夢プラン。『ご先祖様にお線香をあげたい?』と、ご家族さんも一緒に、本日実現できましたあり。9時半に出版し、

18時帰宅。お墓をしばらく見つめ、深々と頭を下げて、合わせた両手を顔に近づけ、何度も何度も拝んで、おどろ屋さん。その入り口に、こんな素敵なお詩が……誰の言葉なのだろうか?」

マッカーサー元帥の座右の銘

「青春の詩」と呼ばれるこの詩はマッカーサー元帥の座右の銘であり、英文名を「Youth」と言う。

昭和天皇がラジオ放送から「大東亜戦争終結の詔書」を発したのは、1945年8月15日12時。

日比谷の連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)の司令官マッカーサー元帥を訪問した昭和天皇が初めて民間人と並んでツーショット写真を撮影されたのは、11月27日。その日、元帥の部屋の壁に掛けられていた詩、それが、英文名「Youth」である。

友人から贈られたこの詩を座右の銘とするほど気に入っていたからこそ、元帥は執務室に飾っていたというのだが、作詩者のサ

ミュエル・ウルマン(1840-1924)がアラバマ州の人であるということ以外、米国内でもあまり知られてはいなかった。

この原詩に感動した岡田義夫(1891-1968・日本フェルト工業統制組合専務理事)は、500字に及ぶ漢詩調に翻訳した。これが後に松下幸之助の眼に止まり、ある雑誌の取材を受けた際に紹介し、それが記事として掲載されたことでも知られるようになった。近年、新井満の自由訳詩も発表された。

「青春」の意味は、青は春の色であるとした五行説*の考え方に基づいていることから、夢や希望に満ち活力の漲る若い時代を人生の春にたとえ、「青春を謳歌する」などと用いるのが一般的だ。

ところが、この詩は「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方をいう」とともに、「歳を重ねただけで人は老いない。理想を失った時、初めて老いる」とある。

2015年の介護保険制度改正に向けた審議が本格化している。

この際、人を制度と読み替えてみることを勧めたい。

*五行説は、中国古代人の世界観の1つで、万象の生成変化を説明するための理論。